

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 稲本 泰生					
配当 学年	全回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	東アジア仏教美術史										
【授業の概要・目的】											
東アジアにおける仏教美術の受容と展開の様相について、具体的な作例に即しつつ多角的に検討する。考察にあたっては「仏教美術が宗教美術であること」「東アジアにとって仏教が外来宗教であること」に特に留意し、他地域の仏教美術や墓葬美術などにも目を配りつつ、最新の研究成果を反映して、造形作品や視覚イメージの生成・伝播等の実態を包括的・構造的に把握することを試みる。											
【到達目標】											
近年の東アジア仏教美術研究における主要な論点について理解を深め、考察を行うための足がかりを得る。											
【授業計画と内容】											
今年度前期は、中国隋唐時代における仏教美術の形成・展開と周辺諸地域への波及の様相に注目し、いくつかの重要な事象を取り上げて講述する。【 】に示した週数の中で、列挙した項目を主軸としてテーマを設定し、講義を進める。各テーマには1～2週を充当する。講義の順序は固定したものではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、講義担当者が定める。											
1．本講義の視点と問題意識【2週】											
2．隋代の仏教美術と周辺地域への波及【3～4週】 隋様式の形成、舍利莊嚴とその波及、遣隋使と日本の仏教美術受容など											
3．唐代の仏教美術と周辺地域への波及【8～9週】 行歴僧の旅と唐様式の形成、国家仏教の造像、遣唐使と日本の仏教美術受容、正倉院宝物の形成など											
4．まとめと総括【1～2週】 フィードバック方法は授業中に説明します。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
期末のレポートにより評価する。レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
必要な資料を配付する。

[授業外学習(予習・復習)等]

仏教美術鑑賞の基礎知識を得ておくことが望ましい。授業の前後を問わず、美術全集や各種図録を通して、また博物館や社寺において、作品に親しむ機会を積極的に作ってほしい。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。